

これからのボーリング技術者養成



岩 沢 英 明

株式会社東北地質専務取締役

地質調査業が盛んになり始めた昭和30～40年代からボーリング技術の指導に当たってこられたのは炭坑及び鉱山の地質部の技術者が主であったと思われるが、これらの方々は逐次引退されつつあるため、各社ともボーリング技術を指導する部署も人も縮小傾向になっているのが現状のようである。

これに変わって、新しい調査法の開発あるいはコンピュータによる解析及びグラフィカルな表示法の研究等に主力を注いでいるようである。

しかし、地質調査に於けるボーリング調査は地表地質調査と共に最も直接的な調査手段であり、物理検層その他の間接的調査結果を地質的に解釈する際の基本的データとなるものであります。

従って、コアを不攪乱の状態で採取する技術は地質調査において最も基本的に重視されるべきものである。

従来、ボーリング技術の伝達は昔ながらの徒弟制度に近い個人的な方法で行われて

きている。

ボーリング技術はきわめて奥深いものであり、習熟には長い研鑽と経験の積み重ねが必要であることは周知のとおりである。

同じ機械装置を使用しても熟練の程度により、掘削の速さ・コアの攪乱の程度・採取率・トラブルの発生率と対処の手際等に信じられないほどの差を示すことは、かねがね感じていることではあったが、当社に籍を置くことになって、改めてそれを強く印象づけられている。

良い成果と、トラブルの未然の防止のためには日常の計画的、組織的指導が必要であることを痛感している次第である。

ボーリング技術の習熟には多様な地質を相手にする長い修練期間を必要とすることを思うと、近い将来の若年労働者の不足に備えるという意味からも、組織的な技術の伝達および新技術の開発は地質調査業ならびに建設コンサルタント業界全体としての課題であろうと思う次第である。

プロフィール

昭和18年4月生	52才
昭和42年3月	東北大学地学卒
昭和42年4月	東北復建技術事務所入社
昭和44年7月	㈱ダイヤコンサルタント入社
昭和55年12月	技術士（応用理学部門）取得
平成6年8月	㈱東北地質入社
趣 味	登山、写真、音楽鑑賞